

2021地域ミーティング 〔 粟田部・岡本・南中山・服間地区 〕開催結果

開催日時 令和3年8月3日（火）午後7時から午後8時まで
会場 社会福祉センター 多目的ホール
出席者 総数50人

（自治振興会）花筐・岡本・南中山・服間自治振興会会長ほか、
各地区役員・区長

（市側）市長、企画部理事、総務部長、官民連携プロジェクト推進室長、都
市整備課長、都市計画課長、観光交流推進課長

司会進行 市民協働課長
記録 地域振興課

◆開会・目的説明 市民協働課長

【市政ミーティング】

◆市長 挨拶

- ①北陸新幹線「越前たけふ」駅周辺官民連携プロジェクトについて
- ②新型コロナウイルス感染症対策ほか
 - ・令和2年度3月補正予算、令和3年度当初、6月補正予算について
 - ・水道料金について
 - ・新型コロナワクチン接種について

【質疑応答】

Q-1：花筐公園に対する市の考え方について（花筐地区）

- (1) 「ふるさとの家」がレッドゾーンに該当していますが、その下の改修のみでもどのくらいの金額なのかご説明頂きたい。
- (2) 花筐公園内のバリアフリー化はどうお考えでしょうか。
- (3) 越前市の他の公園（中央公園、紫式部公園等）に対し、花筐公園への投資はどうお考えか、薪能等歴史伝統をはぐくむ政策をお聞かせください。

A-1 :

(都市整備課長)

- (1) 他の同様な急傾斜地における一般的な工法での算出方法によりますが、概算で1億数千万円程度を要すると考えております。また、総工事費等の25%が地元負担となります。

(都市計画課長)

- (2) 地形等の立地条件から、公園全体をバリアフリーの基準に則したものとすることは困難と考えておりますが、トイレについては、車いすの方も利用できるよう整備しています。

現在、花筐公園保勝会や地区の皆さまと「花筐公園整備と施策5か年計画」の内容について協議しており、その協議結果を踏まえ、今後も計画的な整備に努めてまいります。

(観光交流推進課長)

- (3) これまで回遊バスや、さくらまつりやもみじまつりの開催にあたりましては、広報に要する経費の支援等を行っております。

また、コロナ対策誘客促進事業として、バス助成の立ち寄り地やタクシー促進券の指定乗降箇所に当該公園を指定し、誘客を図っているところであります。

味真野地区や越前和紙の伝統工芸品や薪能などと、歴史伝統がある地域の観光資源とともに、当公園の魅力を十分に発信していきたいと考えております。

Q-1-1 : (花筐地区)

- (1) ふるさとの家の下敷地は、盛土になって傾斜がついたためレッドゾーン指定されています。県にレッドゾーンを解消するにはどうしたらよいか問い合わせしたところ、横に杭を打って止める工法で約3千万円の工事費で解消できると回答いただいております。今回、1億数千万円という回答ですが、3千万円で解消できるのなら検討していただきたい。

- (2) 薪能舞台と2段目のところまでのバリアフリーで十分と考えています。特に下の広場から2段目に行くには階段を利用するしかないので、公園の桜等を見ていただくには、通路となる階段の一部をバリアフリー化することで目的が達成されるのではないのでしょうか。

- (3) 花筐公園には春・秋で約2千人の観光客がきています。語り部等の活動を通じてできるだけのおもてなしをしたいと考えています。また、一見さんではなくリピーターを育てたいと考えています。

現在、観光協会と協議し、公園のパンフレットを作っているのですが、県内の各小中学校に配布していただき、大人になっても来訪してもらえるようにしたいと考えています。

以上の回答は自治振興会へお願いしたい。

Q-2 : 新幹線駅周辺の整備による発展と市東部の活性化について (花筐地区)

新幹線駅に降りられた方をいかに各地区へ誘客するかが重要と思っています。今立4地区と味真野地区などでどのような準備を整えていかなければならないかをお示しいただきたい。

- (1) 今立工業団地の企業と駅周辺のスマートシティのコラボ事業の検討
- (2) 高校・大学に未来の社会が必要とする学科の創設

A-2 :

(官民連携プロジェクト推進室長)

- (1) 駅周辺エリアにつきましては、中小・小規模事業者や仁愛大学、高校、市外の大学、金融機関、市民の方々が連携して主体的に参画できる施設を想定しており、将来的には、市全体で新たな産業・事業が生み出されるまちづくりを目指してまいります。

また、若い世代が交流できる商業施設やスポーツ施設などの整備を進めていくなかで、若い世代が交流するエリアとなり、さらに雇用の創出にも繋がっていくと思っております。

(企画部理事)

- (2) 仁愛大学では、社会に必要とされる即戦力のある学生の育成に取り組んでいるところです。

その一環として、地域創生や多文化共生社会の実現等、社会のニーズに合った大学として存在するべく、学科内のコースの設置等も含め、様々な角度から常に検討、見直しを進めていると聞いております。

また、武生東高校では、来年度より普通科と国際科を統合し、急激な社会変化の中で生き抜くために必要な資質・能力を育成する「学際フロンティア学科」を新設し、学科には「理数探求」「地域探求」「海外留学

進学」の3コースを設置する予定と聞いております。

市長補足：

地元の皆さんと一緒に5カ年計画を作っているのは花筐公園だけで、単年度では、すぐに実現できないことがあると思いますが、中長期的に公園の魅力をさらに高めていく議論をしていくのも誘客につながると思います。

例えば、味真野のナイフヴィレッジでは、古い工房の資料館が整備されることになっています。また、福井銀行旧岡本支店は、来年の春には美術館が開館すると説明を受けております。市も応援をすべく、福井銀行との間において協議を進めているところです。

和紙の里三館と十分連携を図りながら、来年度から誘客に努めるのも効果的だと思いますし、東部地区の皆さんとひとつひとつ磨きながら準備をしていくことが大事だと思います。

また、東部地域と新幹線駅を結ぶ交通媒体がネックになってくると思います。(株)TOPでは小型のEVを開発中で、先日県と無人で動かせるように出来ないかとか、移動手段も含めていろんな策を協議しております。是非、地元のお力をいただきながら、2次交通も含め東部地域の魅力をさらに高めながら誘客の仕組みを考える必要があると思っております。

◆閉会